



歩こうかい 6 月例会(通算 404 回)



藤前干潟野鳥観察と港区の緑地散策

2025 年 6 月 12 日(木)

天気:曇り 参加者 8 名 <10,000 歩>

あおなみ線野跡駅・・・藤前干潟・野鳥観察館・・・稲永東公園(昼食)・・・西稲永バス停＝＝＝

＝＝＝一州町バス停・・・荒子川緑道・・・荒子川公園ガーデンプラザ・・・あおなみ線荒子川公園駅

今月の歩こうかいは雨による 2 回の順延で梅雨入りとなり催行が危ぶまれたが、梅雨の合間で実施に至る。参加者は私を含めて 8 名。幸いな事に、この時期にしてはとても涼しく曇り空。天候に関しては申し分なし。他にも恵まれた事がある。藤前干潟が満潮時間となり、荒子川公園では満開の花と巡り合えることだ。午前 10 時 30 分あおなみ線野跡駅でコース概要についての説明。まずは藤前干潟野鳥観察館へ向かう。

藤前干潟とは伊勢湾の奥にしろうじて残された干潟。埋立がほぼ決まりかけていた時に天使が現れた。1998 年環境庁長官に任命された真鍋賢二さんは埋立には大反対だった。たった 2 年のスピードで埋立中止と追い込んだ現場第一主義の真鍋さんのおかげで、干潟は守られた。2002 年藤前干潟はラムサール条約に登録(特に水鳥の生息として国際的に重要な湿地に関する条約)。それが礎となり 2005 年『自然との共生』『自然の叡智』を理念に開催された愛知万博が成功したのも、埋立中止の影響が大きかったと思う。

(詳細は、ネット『藤前干潟は守られたインサイドストーリー』をご覧ください)

第一章

野跡駅より、途中案内しながら名古屋市野鳥観察館まで徒歩 15 分。野鳥観察館では職員の小川さんが出迎えてくれる。展望室では藤前干潟へ向け高性能望遠鏡(30 倍)で望む。10 台もある。小川さんは野鳥の博士だ。何でも優しく答えてくれる。

この日は大潮。干潮の時間は 12 時半近く。目の前の海が川の流れるが如く急流となり干潟が顔を出す。圧巻の景色が広がる。ここで餌を啄む鳥達にとっては楽園だ。大型猛禽類の鳥達がいらない。今日は弥富野鳥園に住居をかまえるカワウ達がのんびり食事している。海老、かに、魚介類全て新鮮な食材にありつける藤前干潟は最高みたいだ。シラサギも大きな羽を広げて優雅に飛んでいる。

小川さんは、藤前干潟で 1 番大きな鳥であるミサゴが飛んでるよ！教えてくれた。空高く飛んでる。大きな羽。とっても優雅で美しい。野鳥観察館での 30 分間はあっという間に過ぎる。色々教えてくれた小川さんにお礼を言い、藤前干潟をあとに稲永東公園へと向かう。今日は海風が心地よいのありがたい。



藤前干潟の説明



ラムサール条約登録の碑



説明を聞きながら望遠鏡で野鳥観察



干潟を眺めながら稲永東公園へ向かう

第二章

稲永東公園は芝生の美しく小高い丘のある大きな公園。あえてうっそうと茂る森の中から入る事にした。森を抜けると突然、大きな木に大きなハイビスカスを思わせる真っ赤な花。こんなの初めて見た。アメリカデイゴだ。真っ赤に染まって美しい。少し進むとこれまた大きな木に白い花。タイサンボクのお出まし。あっけにとられてしまう。

もう時刻は 12 時をとくに過ぎている。ここではベンチに座ってランチタイム。暑くないのはありがたい。ランチを終えここから荒子川公園入り口まで市バスを利用。



木々に囲まれのんびり歩く



アメリカデイゴ



タイサンボク



昼食風景

第三章

荒子川公園入り口より、お目当てのラベンダーとアナベル(白いアジサイ)の饗宴を見るまでは後 10 分かかる。でも今日は暑さを感じない心地良さ。

現在ラベンダーフェア中であり、紫色に染まる畑はとても綺麗だ。風に乗る香りが鼻に伝わる。名古屋市内でのラベンダー畑としては有名。ここでは全員で記念撮影。このラベンダー畑はあと 1 週間もすると、市民参加で有料で切り取られる。荒子川河畔に咲くアジサイも見事に咲いている。昨日の雨で花が輝いている。アナベル(西洋アジサイ)花壇へ向かう。すげーや！白く広く輝いている。

もう色々な花を見て疲れてしまった。



荒子川緑道のアジサイ



ラベンダー畑



アナベル(西洋アジサイ)



花盛りのアジサイ



締めくくりは近くの喫茶店でコーヒータイム。帰りはあおなみ線で皆さんとお別れ。

おわりに

名古屋は来年迎えるアジア大会に向け、ホテル、競技会場新設にあたって大改造中です。来月には大相撲名古屋場所が新しい施設 IG アリーナでこけら落とし公演として開催されます。新横綱を迎えてとても楽しみにしております。

世間ではインバウンドで東京、京都、大阪は完全にキャパオーバー。まだ名古屋はキャパに余裕が十分あります。素材も増えてきました。ここで JTB の『交流創造』の文化で少しでも多くのお客様が名古屋へ来ていただければ幸せです。

記: 兵藤 清巳